

内外交差点

主演・脚本・監督は貴方、街を舞台に… 思い立ったら行動、ケセラセラ

大岡 理人氏（南タクシー社長） 第12/12回

「一つの怒りで一つ老い、一つの笑顔で一つ若返る」とは、映画「パリタクシー」の乗客の言葉。この映画を原作とする「TOKYOタクシー」が主演：倍賞千恵子×木村拓哉で現在撮影中だ。「ドライブ・イン・マンハッタン」（今月半ば公開終了）も良かった。「人生は0か1、自分で決める」「秘密は一期一会のタクシー運転者に相談を」など名言多数。空港から市内までのタクシー車内の会話劇が観る者の心を驚嘆みする。タクシー運転者はカウンセラーにもなれるのだ。撮影がすべて車内という作品も珍しい。韓国光州事件を描いた「タクシー運転手〜約束は海を越えて〜」も必見。「タクシードライバーの推理日誌」は運行管理の現場もしっかり反映、意外や「ねこタクシー」もタクシーの仕事を丁寧に描いている。アニメのオッドタクシー、タクシーを描く絵本、書籍なども秀作が揃う。

タクシー関係ではないが映画「ノー・アザーランド」はイスラエル軍の破壊行為つまり現実を映画化したもの。一人でも多くの人に観て欲しい。いま最も観たい映画は「ブラックボックス・ダイアリーズ」だ。許諾なく使用された素材があるため国内上映が決まらない（海外50カ国上映中なのに…）。性的被害の泣き寝入りはまさにブラックボックスである。海外版RS（以下、白タク）の危険性は性的暴行件数をみれば歴然である。海外ではレイプ被害の3人に1人は事件化される、つまり被害者は声を上げて最後まで戦う。一方日本では20人に1人だけ。それも羞恥心や徒労感に耐え抜き何とか事件化する。白タクを解放することは、車の数だけブラックボックスを解放するようなものだ！映画化してほしい作品は、ナディア・ムラドさんの書籍（THE LAST GIRL—イスラム国に囚われ、虐殺とレイプ地獄から抜け出す自伝）である。約5年前に読んだこの本の衝撃は未だ忘れられない。

もっとも米国では1月から映画「ゴッドファーザー」のマフィア、ドン・コルレオーネを彷彿とさせるトランプ劇場が始まっているが。自分に属性に近い人物を副大統領にすると選挙で不利になる。それでも

トランプ氏率いる共和党はJDヴァンス（ヒルビリー・エレジーの著者）を副大統領にした。彼はいまやトランプ劇場には必要不可欠な人物



に。次も共和党が勝てば次期大統領当確だろう。露ウ戦争勃発の要因は米国にもある。ガザ停戦も曖昧で、このままでは再び戦争になる。勝者なき貿易戦争を起こし世界経済をブロック化させる。自分が欲しい土地はその土地の所有者に個別に圧力をかけて地上げする。お願いすべき相手にも恫喝する。意表をつく言動で旧知の同盟国であれ誰彼構わず混乱させる（対カナダなど）…不動産業者に国家の経済運営を理解するのは無理であろう。米国は分断どころか大混乱といっても過言ではない。日本はどのような抑止力を持つべきか。抑止＝核兵器とは限らない。日本が「米国に、世界にモノが言えるソフトパワー」はいくつもある。とにかく、無関心は最大の罪、我々は劇を楽しむ観覧者ではないのだ。

自社の新人ドライバー研修で私が使うネタをいくつか紹介する。「初恋、恩師、老衰の人たちから同時に乗車申込みがあったらどうするか？」相乗不可と習った教習生は悩む。（回答例：恩師に車を貸して老衰の方ともに用事を済ませるよう伝え、自分は初恋の人とその場に残る）「大けがをした息子を、父親が病院に連れて行くと医師が自分の息子だと言った、どういうこと？」（医師は母親）「タクシー運転者が一方通行を逆送、その場にいた警官は呼び止めない、なぜ？」（徒歩だから）。

健康管理上、私生活のことも聴く。「この仕事は7時間の睡眠確保が重要。スマホ1日何時間見る？睡眠に影響しない？」等…。私的統計では皆1日2時間、スマホの情報洪水に没頭する。睡眠の妨げとなる。タクシー運転者は認知症になりにくい。それは地理を覚える、最短経路を考えることが脳の空間情報を担う海馬を最も活性化させるからだ。脳を活性化させるため読書は必須。好きな作家は？と聞かれたら一番かもしれない曾野綾子さんが天に召された。元ペルー大統領のフジモリさんが日本に5年間滞在したのが曾野さん宅。ダメ元で探してお二人と会いたかった！人生思い立ったら行動、ケセラセラ。今後は後悔のない航海をしよう。